

事務事業マネジメントシート(平成30年度実績と平成31年度計画)

令和 2 年 2 月 21 日 更新

事務事業名		畜産振興事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	6	産業の健康				所属部	産業振興部	課長名	塚本 健洋
	施 策	26	農業の振興				所属課	農政課	担当者名	後藤 啓介
	施策の柱	69	生産基盤の確保と経営力の強化				所属班	農政班	(内線)	5224
予算科目		会計一般	款 6	項 1	目 11	事業連番 11499	根拠法令			
終了、開始年度		☐ 30年度で終了 ☐ 30年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	畜産農家への事業費の補助、中学校給食用牛乳増量に対する補助、畜産統計、経営研修などの自主的な活動費用を助成している。畜産農業振興のため畜産農家への負担が軽減されている。
【業務の流れ】	事業費の補助金支払事務、経営研修引率、畜産統計委託事務
【主な予算費目】	職員手当等、需用費、役務費、委託料、負担金補助及び交付金
【意見や要望】	

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 30年度実績(30年度に行った主な活動) (DO) 畜産農家への事業費の補助、中学校給食用牛乳補助事業事務、畜産統計、経営研修などの自主的な活動を助成。		31年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 畜産農家への事業費の補助、中学校給食用牛乳補助事業事務、畜産統計、経営研修などの自主的な活動を助成。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 件	予算の主な増減の理由
→ ア 実施事業数		畜産振興協議会協議会補助金の減
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)
畜産振興協議会、中学校生徒、畜産農家		→ ア 畜産農家数 戸
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)
畜産農家の情報交換や交流の場を設定してもらう。		→ ア 協議会の活動件数(有効な会合、イベントなど) 件
*③成果指標設定の理由と31年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度
畜産農家の情報交換や交流の場を設定してもらうことで畜産振興に繋がるため、成果指標を「協議会の活動件数(有効な会合、イベントなど)」とした。目標値については、24年度実績65件に基づき65件と設定した。		0

(2) 各指標・総事業費 の推移				単位	28年度 実績(決算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	30年度 実績(決算)	31年度 目標(当初予算)	2年度 予定	3年度 見込	4年度 見込
① 活動指標		ア イ	件		4	5	5	4	5	5	5	5
② 対象指標		ア イ	戸		109	105	105	103	105	105	105	105
③ 成果指標		ア イ	件		64	75	65	70	65	65	65	65
投資 入費 量	事業 費 内 訳	財 源	国庫支出金	千円		2,750						
			都道府県支出金	千円			139,825					
			地方債	千円								
			その他	千円								
			繰入金	千円								
		一般財源	千円	2,686	2,838	2,810	2,545	2,620	2,620	2,620	2,620	
		(A) 事業費計	千円	2,686	5,588	2,810	142,370	2,620	2,620	2,620	2,620	
		(A)のうち指定経費	千円	77	77	76	73	57	30	30	30	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	47	47	46	43	27	46	46	46	
	人 件 費		正規職員従事人数	人	4	5	6	2	6	6	6	0
			延べ業務時間	時間	1,175	1,143	1,900	670	0	0	0	0
			(B)人件費計	千円	0	4,521	7,569	2,641	0	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)				千円	2,686	10,109	10,379	145,011	2,620	2,620	2,620	2,620

事務事業名	畜産振興事業	所属部	産業振興部	所属課	農政課
-------	--------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部（CHECK）

*原則は30年度の後評価、ただし複数年度事業は30年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①30年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②31年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 引き続き、本事業によって、部会活動支援などの畜産振興を図ることで達成できる。
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 本事業によって、適正な畜産振興が図られている。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業）⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の目的を持つ事務事業は他にない
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 畜産農家の自主的な活動に頼っている状況にあり、事業費削減が成果の下落になりかねない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 本事業への職員の対応を少なくすることは難しい。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 全ての畜種に対し公平に受益機会を設けている。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 市としての役割は適正である。関係団体と連携できている。

3 評価結果の総括（CHECK）

畜産業を取り巻く環境（家畜伝染病、悪臭苦情、経営環境の変化など）に対応しながら、事業を進めることが重要である。国内において、鳥インフルエンザなどの重大な家畜伝染病の発生リスクが高まっているため、関係団体との連携などにより対策を強化する必要がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可					(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要）																									
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善）					<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>							コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○			低下			
		コスト																												
		削減	維持	増加																										
成果	向上																													
	維持	○																												
	低下																													
☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善）																														
☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）																														

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策